



五木村議会だより  
2014年(平成26年)4月30日発行

# やまのめ

題字：尾方 芳郎氏

No. 108

## 花見を楽しむ五木の友の利用者の方々

- (もくじ)
- ・ 3月定例会…………… 2～4
  - ・ 太陽光発電の誘致は (一般質問)…………… 6～9
  - ・ むらびとインタビュー…………… 11
  - ・ 五木村の宝…………… 12

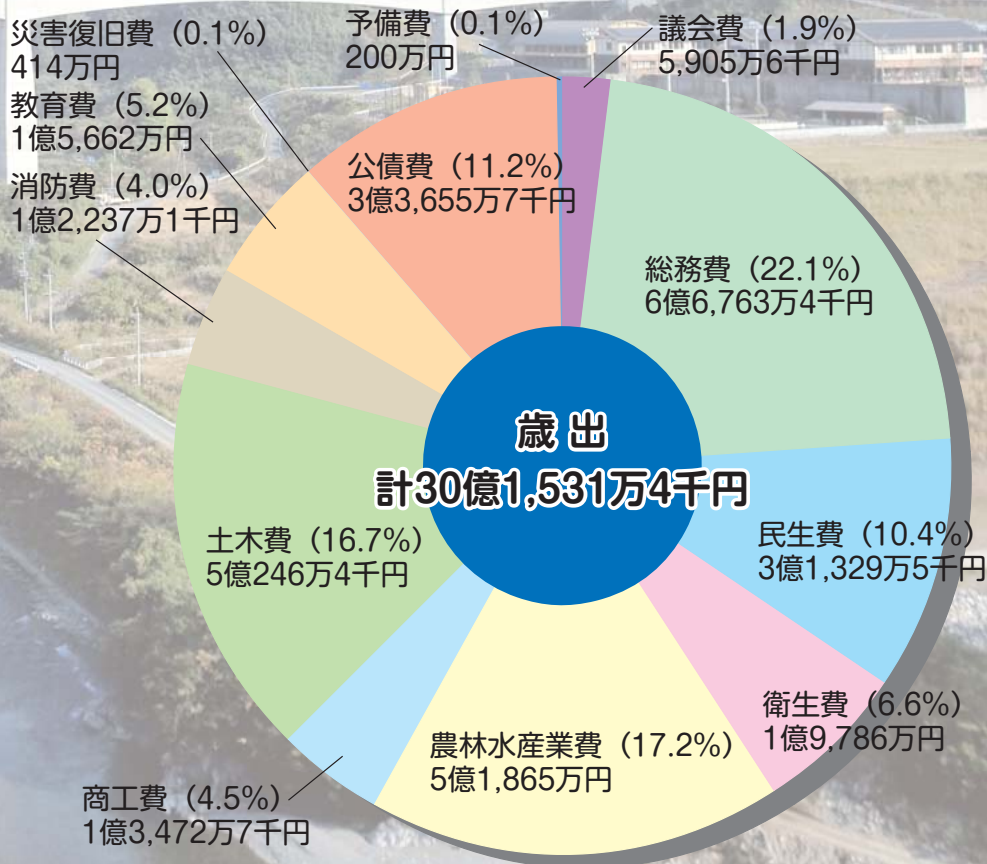
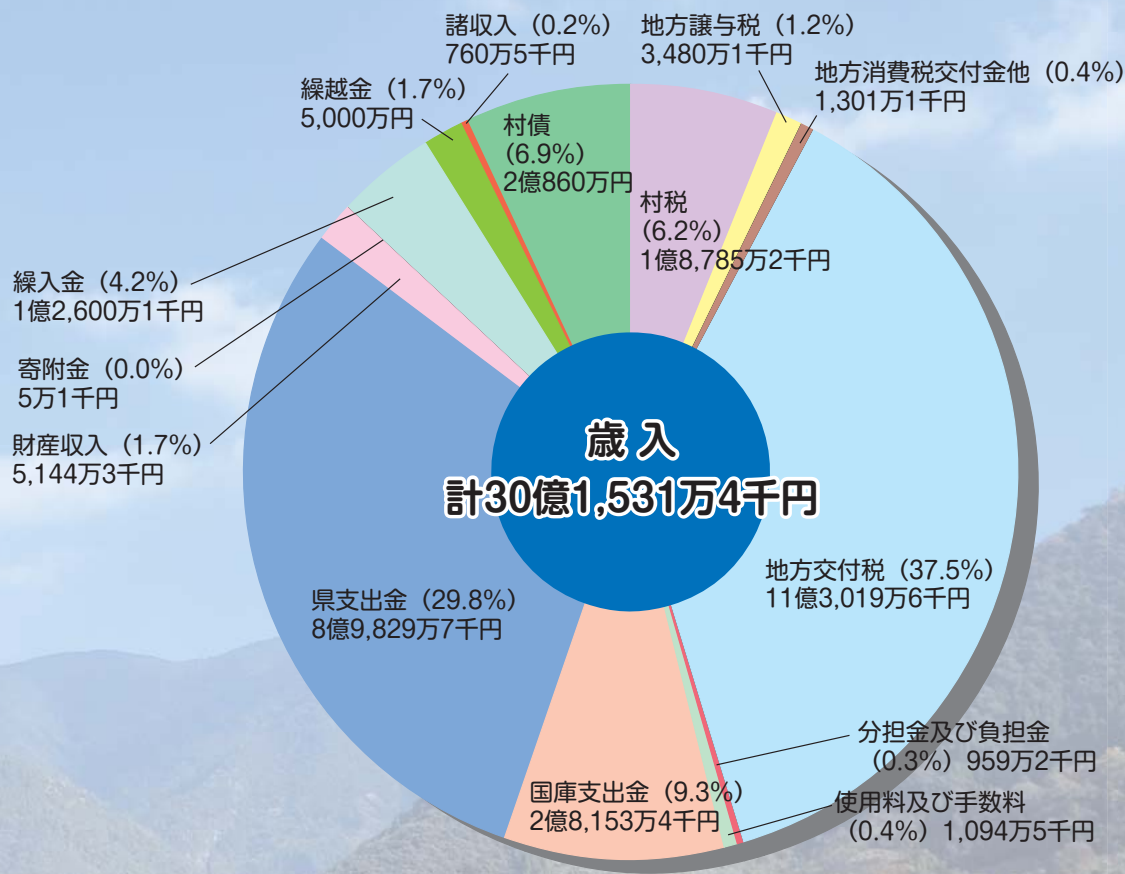


# 初予算を可決

3月定例会

若者の雇用の場と定住促進にどう活かすか

30億1,500万円



# 平成26年度当

## 定例会会期中に全員協議会を開き26年度予算を慎重審議を行った

平成26年第1回定例会が3月10日から17日までの会期で開催。「条例制定2件」「条例改正10件」「条例廃止1件」「指定管理者指定5件」「工事請負変更契約3件」「25年度補正予算7件」「26年度当初予算10件」「議員提案1件」「工事請負契約案件1件」合計40件を原案どおり可決。また一般質問は4人の議員が質問をしました。

### 平成26年度特別会計当初予算集計表

会 計 名	予 算 額
国民健康保険特別会計	1億8,488万9千円
ダム対策事業特別会計	23万2千円
簡易水道事業特別会計	2,449万円
農業集落排水事業特別会計	1,225万8千円
介護保険特別会計	1億9,493万2千円
代替地上下水道事業特別会計	1,256万5千円
後期高齢者医療特別会計	2,285万3千円
墓地公園特別会計	23万7千円
情報通信事業特別会計	2,925万円
計	4億8,170万6千円

平成25年度一般会計補正予算（第10号）で歳入歳出2億6,017万7千円を追加し歳入歳出総額42億1,755万9千円とする。

### 主な事業（補正予算）

健康交流広場大屋根整備工事	1億1,000万円
水没地中央エリア設計委託	2,500万円
水没地景観植栽工事	5,500万円
白滝公園整備工事	4,000万円
村有林鹿ネット設置委託料	1,568万円
森を育てる間伐材利用推進事業補助金	633万円

## こんなことが 決まりました

### 条例の制定

- 五木村林業振興基金条例の制定
- 五木村鳥獣被害対策実施隊設置条例制定

### 条例の一部改正

- 五木村減債基金条例の一部改正
- 報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
- 五木村分担金徴収条例の一部改正
- 五木村移動通信用鉄塔設置及び管理条例の一部改正
- 五木村介護保険条例の一部改正
- 五木村ひとり親家庭医療費助成条例の一部改正
- 五木村健やか子ども医療費助成条例の一部改正
- 五木村給水条例の一部改正
- 代替地上下水道施設使用料条例の一部改正
- 五木村道路占用料徴収条例の一部改正

### 条例の廃止

- 五木村心身障害者福祉年金支給条例の廃止条例

### 指定管理の指定

- 道の駅  
〔榎子守唄の里五木〕
- 子守唄公園かやぶき民家  
〔観光協会〕

- 五木村自然森林公園  
〔振興公社〕

- 五木村保健福祉総合センター  
〔社会福祉協議会〕

- 五木村林業センター  
〔振興公社〕

### 工事請負変更契約の締結

- 宮園地区簡易水道区域拡張工事（築切工区）
- 村道野々脇金川線道路災害復旧工事
- 村道白滝線道路改良工事

### 工事請負契約の締結

- 村道葛の八重線道路改良工事

※全て、全会一致で可決

### 議員提案

- 五木村議会議員の定数を定める条例の一部改正

五木村議会議員の定数を定める条例（平成14年五木村条例第20号）の一部を次のように改正する

本則中「10人」を「8人」に改める。

（施行期日）

- 一、この条例は平成26年4月1日から施行する。

※議員定数「8人」は次の一般選挙から適用。

議員定数と議会改革の件は、平成25年7月の改選前から継続的に審議を重ねて、26年3月定例会で議員提案で可決されました。一方、議会改革として左記の件も全議員で決定しました。

- 一、村民にご理解をいただく広報に努める。
- 一、毎定例会後に反省等を含め、議会活動の向上と村づくりに努める。
- 一、議会報告会、各種団体と意見交換を開催し、村民との対話に努め、村民の意見を村政に反映していく。

### 五木村選挙管理委員会委員 並びに同補充員決まる

選挙管理委員の任期満了に伴い、去る2月21日に開催された平成26年第2回議会臨時会において、次の方々が次期委員並びに補充員に決定されました。

なお、3月6日に開かれた同委員会で、委員長に辻 博樹氏が選出されました。（任期：平成26年3月4日～平成30年3月3日まで）

#### ● 選挙管理委員会委員（敬称略）

委員長	辻 博樹	頭地
委員	田中良喜	頭地
委員	田中加代子	竹の川
委員	岩本員功	宮園

#### ● 同補充員（敬称略）

第1順位	吉松 ひとみ	頭地
第2順位	竹村 智幸	松尾野
第3順位	藤本 由美子	中村
第4順位	井元 芳勝	高野

## ケーブルテレビの利用料金据え置き

調査内容 平成26年2月6日

本委員会に付託された調査事件について、調査を実施した。

### 調査経緯

**調査事件** ケーブルテレビ利用料金の値上げについて

**調査経過** 平成23年4月に開局したケーブルテレビ（いつきちゃんネル）については、情報通信事業特別会計にて運営しているが、健全な財政運営のため、利用料金を含めた上で協議検討を行った。

### 担当課からの説明

- ・特別会計は、毎年15,000千円超の赤字であり、一般会計より繰り入れを行っている。
- ・4月から消費税が上がるため、九電・NTTの共架料や維持管理費等、支出に3%が加算される。このような状況下で月額料金の値上げをしたい。

### 委員からの意見

- ・開局前に説明が行われたが、このような状況になることは予想出来なかったのか。
- ・料金を上げる前に共架料の減額交渉や支出を減らす努力を望む。
- ・アナログ放送から地上デジタル放送への移行は国策であるので、何らかの形で財源措置を要望するべきである。

### 委員会としてのまとめ

本事業は平成23年度から2年しか経っておらず、高齢者福祉の面からも利用料金の値上げは、次期尚早ではないか。値上げの前に九電やNTTに対し、共架料の値上げ交渉を再度行う必要がある。

また、本村は他の町村に比べ広範囲であり、ひいては電柱の数も多くある現状である。国策である地上デジタル放送へ移行したことにより財政が圧迫されているので、特別交付税等算定には特殊事情等を検討し財源確保に努めていただきたい。

## 平成24年7月豪雨災害における復旧現場状況視察

調査の事件 平成26年2月13日

平成24年7月豪雨災害における復旧現場状況視察（村道折立線・林道相良五木線）

今回は特に大きな災害であった村道折立線及び林道相良五木線復旧の進捗と現状を視察した。

林道相良五木線においては、仰烏帽子山への登山客が増えてくる中、どの位まで車で行くことが可能か、現在どのような状況であるか調査を行った。

### 建設課の説明

#### 村道折立線

災害現場11箇所のうち5箇所は発注済みであるが、入札不調などもあり、かなり遅れている。また終点側の災害（3件）は、竣工もしているが集落先の橋梁下部工が復旧していないため、橋梁上部工とその先の災害箇所が未発注である。当初、3箇年で完了を目指していたが、事故繰越の扱いとして平成27年度中の完成を予定。

### 林道相良五木線

2箇所の大規模な災害のうち仰烏帽子山登山口近くの復旧は平成25年12月に竣工している。手前の1箇所も年度内には終わる予定。

### まとめ

公共工事の増加に伴い業者の手待ち工事が多く、入札不調等もあつて村道折立線、林道相良五木線の災害復旧工事が遅れているが、両線とも住民の生活に関わる重要な路線であるため、一刻も早い復旧を要請する。

また、平成24年7月の九州北部豪雨災害でかなりの打撃を受けた九折瀬地区の砂防ダムの進捗状況も併せて視察した。



一部復旧が完了した林道相良五木線

# を問う！



## 太陽光発電の誘致は

山本議員

## 立地の可能性があれば十分検討したい

和田村長

**山本議員** 太陽光発電の大手、(株)ウエストホールディング

スが、地方自治体から市役所や学校など公共施設の屋根や土地を一括して借り受け、充電用の太陽光発電を建設する事業を2015年度までに45市町村での導入を目指している。本村もこのような事業に取り組み考えはないのか。

**和田村長** 五木の場合には太陽光が有利というのは、広範囲に施設、住家が散らばっておりその分カバーするという意味では非常に有利とされている。災害等には有効であるので是非導入したいと思っている。企業誘致条項もつくつてあるので企業立地が必要であれば、歓迎をしたいと思っている。

●女性ハンターを活かした鳥獣対策及び定住促進について

### 質問

平成21年度現在で、日本

のハンターは18万6,000人。そのうち女性が1,539人と1%に満たないのが現状である。「狩りガール」は狩猟者の減少や高齢化、また野生動物による農林産物への被害を受け、若者に狩猟に対する理解や関心を持ってもらうことを目的としている。このような活動を利用し、女性ハンターを本村に呼び込み鳥獣対策及び将来、本村に定住していただく考えはないか。

### 村長

制度上はいろんな事を

設けている。女性ハンターだけで募集をして五木に來られるか問題である。ほかの就業機会なり、雇用なりを合わせながら考えていき十分検討をしていきたい。



太陽光パネル



狩猟

元気な女性ハンター

# 村づくり



## 消費税増税に伴う高齢者対策は

縦木議員

## 村独自の支援制度の充実で

和田村長

**縦木議員** 村長は村内の年金受給者数と最低年金受給額がいくら位であるか把握しておりますか。

**和田村長** 正確ではないかも知れないが、500人程と月額3万数千円ではないかと思う。

**質問** 今年4月に消費税が5%から8%へと引き上げられるが新聞読者投稿などで、よく目にするのが「高齢者の年金減額、いじめ、全く同感」という記事があった。この様な投稿をされる方も月額14〜15万受給されておられる中、最低受給額が月額2万数千円という方もおられる。国は臨時給付金などの対応策を考えているようだが、本村独自の対応策はないのか。

**村長** 村単独での現金等による対応策は考えていないが、従前から

ある村独自の制度として「移動手段の支援」「買い物支援」「食の支援」などの充実を図っていき、それらの制度を利用して生活を維持していただけたらと考えている。

**質問** そういった制度がある事への村民に対する周知やマニュアルなどあるのか。

**村長** 情報が十分に届いているかというところ案内な部分もあると思う。有効に活用していただくために周知を徹底したい。

### ●集落再編成の考えは

**質問** 集落再編成についての調査は幾度となくされていると思うが、その後、具体的な地域の絞り込みや対象地域への説明会等はされているのか。

**村長** 情報の収集においては、地域支援の職員等で行っており把握

はしている。生活するのに交通の便が悪かったり、特に水道の維持管理が煩雑であったり、買い物にも不自由をするといった方々が、一箇所に集合し、生活をしていただけるとすれば、「いつ頃」「どこに」「どの様な形で」などの意向調査をした

計上させて頂いた。新年度の予算にも

**質問** 集落再編というのは簡単ではないと思うが、「限界集落から移転する前に人がいなくなつた」とならない内に何らかの手を打つべきではないか。

そこで提案であるが、本村にケアハウス的な物が出来ないかと。全国には高齢者の方がたくさんおられ、逆転の発想で本村の豊かな自然を売り手にしてはどうか。

**村長** 是非、やって

みたいと思うが、「どこに」「どのような費用で」「運営母体は」など具体的な案はまだない。自然豊かなこの村で子育てをされ、苦労をされて生活を維持し地域を守ってこられた方々を大事にするというのは当然のことであり、不安を抱えながら生活を送られるというのが一番困るわけで、行政の支援や周囲の手助けが受けられ、安心して生活ができる事を念頭に進めていきたい。



保健福祉総合センター（頭地）

# を問う！



## 竹の川の移住者向け住宅への入居者は —— 中村議員 —— 現在、募集の段階である —— 和田村長

●定住促進事業の進捗状況について

**中村議員** 本村での定住促進事業の取り組みの経過、進捗状況を伺いたい。

**和田村長** 22年から具体的な予算化のもとスタートし、高額な家賃の補助、職の提供、通勤助成等、多岐にわたる取り組みがあり、約60件弱の方が制度をご利用いただいている。

**質問** 定住者向け住宅は、家賃が3万円、18歳未満の子どもが3人いれば無料という優遇措置が取られるようである。現在、村内で子供を育てておられる方から不公平感や不満が出た場合の対応は。

**村長** 移住定住を促進するための誘導策として優遇措置は必要であり、村民の方々にはご理解をいただく以外にはない。子育てについての制度は

充実しているもので、そちらを活用していただきたい。

**質問** 移住される方の不安を解消する手立ては重要であり、パンフレットの作成など取り組みられているようだが、村民の受け入れ体制の構築も非常に大事だと考えている。住宅の改修工事は現在一軒が終了し、既に3月7日から募集が始まっているが、村民に対する説明会はいつ頃、どのように実施する計画なのか伺いたい。

**村長** 今のところは、第一段階として、「どれぐらいの応募があるのか」「どのような家族構成の方が応募され」「仕事を何をするおつもりなのか」等を見極める状況である。今後、地域にご説明をしたり、地域の習慣や特色、ご意見を賜る機会を設けたい。

**質問** 特に若い世帯の移住定

住には仕事の確保が不可欠であると思われる。仕事については「本人の責任において探していただくのか」「村である程度手助けをするのか」もしくは「起業する人を求めているのか」考えを伺いたい。

**村長** 仕事や家族構成については、公募の段階でもあり、間口を広げておきたいことから限定はしてない。ただ、児童生徒が増えることは大きな目的の一つであり、希望でもある。仕事に関しては直接、本人からご意見を確かめながら、できるだけお手伝いをしていきたい。

**質問** 現在、人口減は全国的な課題であり、多くの自治体が独自の良さやメリットを必死でアピールし、定住促進の取り組みを行っている。逆に五木村民が他の自治体に魅力を感じ、流出してしまうとい

う可能性もないとは言えない。まずは住民の暮らしの満足度を高める努力、そして今後の急激な人口減を見据えた安心できる方向性を示すことによつて、村外流出を防ぐ取り組みが急務であると考えているが、村長の考えを伺いたい。

**村長** 村民の声を受けて、給水施設の簡素化、管理のし易い形を考え、いろいろな地域で進めている。また、住み易い条件の一つに税負担感が少ないという点があり、総合的に進めていきたい。村民の方々の不安、不満、一つひとつを丁寧にスピード感をもって、できるだけ早い決断、早い着手を念頭において実行していきたい。あわせて五木のブランド力の向上も進めたい。



# 村づくり



## 職員の人事交流は

早田議員

## 現状は実現できていない

和田村長

**早田議員** 職員の職務の効率化とスキルアップについて、村長はどう対応されているのか。

**和田村長** 効率化は必要と考えている。各職員にはシステム上のメリットのある職能別に

必要なパソコンを配置・導入して効率化に努めている。

**質問** パソコンもウィンドウズXPサポートの期限切れが迫っているがその対応とその後研修などはどうなっているのか。

**村長** セキュリティ対策は十分やっていた。取扱いの熟練度と安全対策の研修などは計画してないが、必要に応じてそれぞれ指導をしていくような形をとっている。

**質問** 村の例規集には、「職員の自己啓発休業に関する条例」も設置してあるが過去にこの制度を利用した職員はいるのか。

**村長** 制度上はあるが利用した職員はいない。なかなか自分で進んで、という動きがないのは残念に思っている。

**質問** 熊本県と国土交通省から職員の派遣をお願いしているが、職員の人事交流の導入は考えていないのか。

**村長** 熊本県や熊本大学、九州大学、崇城大学などから人事交流の打診はあるが、人員の制約があり残念だが実現できていない。

**質問** 考えているだけでは進歩がないので年度内にやるのかどうか決心のほどはどうか。

**村長** 新年度になつてから即戦力の任期付きで補充したい。そして、若い職員を育てるためにも、キャリアを積むためにも必要だと考えている。

**●村長の所信表明は**

**質問** 村長の新年度に対する所信表明なるものがなかったが、年度当初に予算の方向性を示すべきではないのか。

**村長** 村の後期計画が26年度から始まるので確実にスピード感をもって実施することだと思っている。予算のキャッチコピーなどは今、思いつかないが、何か良いアピールができるようなものがあれば、広報などを通じてお知らせしたい。

**質問** 村はこれまでコンサルタントや学識経験者、有識者、大学教授などの意見やアドバイスを受けて来たが、責任ある研究機関またはシンクタンク※などは考えられないのか。

**村長** 全体的なコーディネートの手助けのシンクタンクがあれば助かるが、最高決定機関は議会なので役割分担も含め考え

る必要があると思う。

**質問** 村の情報公開など行政の「見える化」対策はどう行っていくのか。また、村の申請書などのダウンロードサービスは行わないのか。

**村長** 「見える化」対策は「見えない化」の共に部署に応じて対応したい。また、ダウンロードサービスについては機械の更新と共に人手の面もどうしていくのか考えていきたい。



県から派遣されている職員（ふるさと振興課）

※シンクタンク…公共政策などの策定に資することを目的とした研究組織。

## 「ダムによらない治水を検討する場」の今後の動向は？

### 委員会の期日

平成 26 年 1 月 8 日

### 調査事件

「ダムによらない治水を検討する場」における村長協議

### 調査経緯

昨年暮れに人吉市長から「ダムによらない治水を検討する場」の本会議（親会議）の早期開催を求めたい意向を球磨郡町村長へ打診された。

それを受け、五木村として、村再建に関する重要な意思表示を行う必要があり、委員会で協議を行った。

### 村長の説明

安全度を下げってしまう「当面の対策」を根拠とする計画に流域市町村が同意するようなことがあれば、川辺川ダム建設計画により、大きな精神的負担や財政負担、村存続の危機にまで追い込んだ責任を流域市町村に対し検討の場で認識と確認をさせたい旨である。

### 委員からの意見

- ・人吉市長単独での行動はいかかなものか。
- ・市長が「ダムは必要ない」と言った反面、近年の多発する災害を機に早く収束させたい考えなのではないか。
- ・世代交代により、現在の近隣市町村長、議長は昔の経緯と現在の実情を分かっておられるのか。
- ・検討の場で五木村再建の意見を述べ、結論を早く出すよう求める必要がある。

### まとめ

村長の説明によると球磨村長と人吉市長との意見の相違もあるようであり、本村としても近隣市町村長へ川辺川ダム建設計画の経緯と認識をこの協議の場で、更に意見を述べていくよう村長に求めた。なお、進展があれば、その都度本委員会で協議していく。

### 「ダムによらない治水を検討する場」・・・とは

経 緯・・・平成 20 年 9 月 11 日に県知事が「現行の川辺川ダム計画を白紙撤回」と表明されたことを機に平成 20 年 10 月 28 日に国交大臣と県知事が設置したものです。

目 的・・・川辺川ダム以外の治水対策の現実的な手法について、極限まで検討し、地域の安全に責任を負う者の間で認識を共有するためのものです。

参加団体・・・国・県・八代市・人吉市・球磨郡 9 町村・芦北町の 14 団体です。

#### 検討内容

堤防を嵩上げしたり、河床に堆積した土砂を取り除いたり、球磨川沿いに遊水地を確保する検討がなされています。平成 21 年 1 月に第 1 回会議が開催され、平成 23 年 9 月の第 9 回会議を最後に、現在に至るまで開催されておらず、明確な結論も出ておりません。

結婚を機に五木村で生活する「松坂酉起さん」



松坂酉起さん  
S62.10.20生 (26歳)

平成25年3月にあさぎり町から五木へ移住された松坂さん

◎学校を卒業後は、どんな仕事をされて  
いましたか？  
高校卒業後、陸上自衛隊に入隊し、え  
びの駐屯地で6年間勤務後、松本林業へ  
転職し林業の仕事をしていました。

◎五木村に住むことになったきっかけ  
は？  
結婚を機に五木村に住むことになりま  
した。自然豊かで風光明媚な五木村で何  
かの仕事ができないかと思っていたこと  
ろに子守唄の里五木の「道の駅」を紹介  
してもらい道の駅で働いており、五木村  
の自然を生かした農産物や椎茸、アウト  
ドア等、各種のイベントに参加したいと

思っています。

◎五木村に住み、村の状況をどう受けと  
めていますか？

若い方が少ない印象です。若い方々が  
住む住宅も少ないし、雇用の場や安心し  
て住める給料等の問題もあると感じてお  
ります。

◎どうすれば、若い方々が定住できると  
思いますか？

安定した仕事と住める住宅を提供して  
もらえば若者の定住は多くなると思いま  
す。また、若い方にイベント行事に参加  
してもらい、五木村のアピールが出来る  
ような場を作って行く必要があると思い  
ます。

◎これからも住み続ける中で、どんな事  
が必要と思いますか？

若者同士で協力し、イベントや行事を  
盛り上げ、会社や消防団活動等に貢献出  
来るような働く場の理解と安心して活動  
が出来る経営者の対応が必要だと思いま  
す。

議会の動き(3月～5月)

3月 1日	人吉高校五木分校卒業証書授与式 3月定例郡議長会議 (議長)	4月17日	全員協議会
3月 5日	3月定例全員協議会	4月18日	郡町村監査委員連絡協議会定期総会 (岡本 監査委員)
3月 9日	五木中学校卒業式	4月22日	平成26年第4回五木村議会臨時会・広報委員会
3月10日	平成26年第1回五木村議会定例会～14日	4月23日	五木村戦没者追悼式
3月18日	五木村健康・交流広場(仮称)整備工事起工式 県総務部政策審議監(木村氏)との意見交換会	4月24日	例月現金出納検査(岡本監査委員)～25日
3月25日	五木東小学校卒業式 県監査定期総会・町村監査委員研修会(岡 本監査委員)	4月25日	広報委員会
3月26日	五木中央保育所卒園式	5月 8日	5月定例全員協議会
3月31日	平成26年第3回五木村議会臨時会	5月13日	県町村議長会研修会(議長) 球磨地域振興局幹部との懇談会(議長)
4月 1日	中央保育所入園式	5月15日	5月定例郡議長会議(議長)
4月 2日	4月定例全員協議会・広報委員会	5月19日	人吉下球磨消防組合議会臨時会(中村議員)
4月 3日	熊本県市町村自治会館別館落成式(議長)	5月20日	人吉下球磨消防組合議会県外視察研修(中 村議員)～22日
4月 8日	五木東小学校入学式	5月27日	第39回全国町村議長・副議長研修会(東 京都)～28日
4月 9日	五木中学校入学式・人吉高校五木分校入学式	5月29日	人吉球磨広域行政組合議会臨時会(田山・ 山本議員)
4月10日	4月定例郡議長会議(議長)・広報委員会	5月31日	人吉下球磨消防組合発足40周年記念式典(議長・中村議員)
4月16日	広報委員会		

# シリーズ たから 五木村の宝 Vol.11

## ＝端海野・子別峠地区その1＝



端海野  
(村道栗ヶ丘線と村道平沢津端海野線の分岐)



子別峠  
(写真中央が開通記念碑)

端海野・子別峠地区は、村の中心部より北西へ約20km、標高約1,000mに位置する。旧校区はそれぞれ異なり、端海野は西地区（小鶴等）に属し、子別峠は北地区（宮園等）に属する。この地区には、栗ヶ丘、端海野、子別峠開拓の3つの組織があり、栗ヶ丘と端海野は村外者で開拓され、子別峠は平沢津12世帯とその親族3世帯により昭和22年から開拓が行われた。その後2世帯が脱会し、現在は13世帯がこの土地で農産物等を

生産されている。当時の子別峠の子供たちは平沢津分校へ通っていたが、端海野には学校がなかった。そこで移り住んだ方々が要望し、昭和26年10月に西小学校の分校として、端海野分校が開校された。それから数十年、この2つの分校も、端海野分校が昭和55年度に休校となり、昭和61年度に再び開校されたが、平成12年度に再び休校。その後、平成19年度に廃校となった。平沢津分校は平成12年

度に休校となり、端海野分校と同じく、平成19年度に廃校となった。開拓当初は道路もなく、現在の八代市泉町吐合から端海野まで開拓道路として約6年の年月を費やし開設され、子別峠には記念碑が建立されている。なお、子別峠から椎葉集落までは地区住民と林業関係者で開設された。電気は、泉町下鶴から山道（現作業道平尾線）沿いに地元山林より70本ほど切り出した杉丸太を電柱として建てた。労力も地元で調達し、端村と椎葉の各集落に電気を送ることができた。その後、子別峠にも電気が通ったが、端海野地区には鉱山業者も入山しており、しばらくは動力発電と風力発電でまかなわれていたが、昭和42年には、この地区にも電気が通じる様になった。

続きは次回へ。

### 編集後記

長い冬がようやく終わり、梅、桃、桜の美しさに心を奪われる美しい春がやってきた。刻々と変化し続ける自然界の不思議さに魅了されていたら、そこに突然、鳥インフルエンザのニュース。しかも郡内での発生に衝撃が走った。防疫措置に奔走された多くの方々のご苦労はいかばかりであつたらう。懸命に育てこられた養鶏業者の心痛も察するに余りある。

冬場の鳥インフルエンザを警戒して、球磨地域でも昨年11月に防疫演習が行われていたとのこと。演習と現実は違うが、この事前の備えは今回の予期せぬ事態に際し、大いに役に立ったことだろう。

新年度に向けそれぞれ慌たしい中にも、希望あふれる毎日を送らせている方も多い中、忘れたところにやってくる自然災害に対する心構えと準備を行政はもちろん、各地域のつながりの中で日々、構築しておくことの大切さを改めて感じた4月となった。

(T・N)

次回の定例会は6月中旬の予定です。皆様の傍聴をお待ちしております。